総合的な学習の時間「日本文化を伝えよう」指導案

指導者　京都市立伏見南浜小学校 谷川 美遥

1 日　時　令和8年11月13日（金） 第5校時（13:10 ～ 13:55 ）

2 学年・組　第5学年1組（26名）

3 単 元 名 「日本文化を伝えよう～和の心～」

4 単元の目標

日本の伝統文化や生活文化についての体験活動や、それらを受け継ぐ人々との交流、海外の人々にその魅力を発信する活動を通して、日本文化の特徴や価値、多様な人々によって受け継がれてきたことを理解し、そのよさや「和の心」に気付き、日本文化の魅力や、それを効果的に伝える方法について考えるとともに、自国の文化への理解と愛着を深め、これからの生活や国際社会の中で主体的に生かしていくことができるようにする。

5 内容と単元の評価規準

【探究課題】日本文化の魅力や価値と、そこに根づく「和の心」を世界に発信する自分

探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	日本文化の体験活動、留学生との交流を通して、日本文化には人々の思いや願いが込められており、その根底に「和の心」があることを理解するとともに、その理解が探究活動を通して深まったものであることに気付くことができる。	日本文化や「和の心」について設定した課題に対して見通しをもち、必要な情報を収集・整理・分析しながら考えるとともに、自分の考えを形成し、相手や目的に応じて分かりやすく表現することができる。	日本文化や「和の心」、自分自身の生き方について、自分や他者の考えのよさを生かしながら探究活動に取り組み、学んだことをこれからの生活や社会との関わりに生かすことができる。

単元の評価規準	観点／過程	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	発見過程／追究過程	① 日本文化には、それぞれの文化を支えてきた人々の思いや願いがあり、その背景に共通する価値があることを理解している。 ② 課題の解決に必要な情報を集めるために、体験活動やインタビュー、文献調査などの方法を目的に応じて適切に活用している。	① 日本文化についての疑問や気付きから課題を設定している。 ② 必要な情報を比較したり関連付けたりしながら、日本文化の魅力や価値について考えている。 ③ 体験活動やインタビューを通して得た情報を整理し、「和の心」について自分なりの考えを形成している。	① 日本文化への関心をもち、自ら課題を見付けて探究しようとしている。 ② 友達や講師の考えを受け止めながら、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
	提案過程／熟成過程／表現過程	③ 日本文化に息づく「和の心」や魅力に気付き、その価値や意味を理解している。 ④ 留学生との交流や振り返りを通して深まった考えが、探究活動による学びの成果であることに気付いている。	④ 留学生に伝える目的や相手を意識しながら、発信内容や方法を工夫している。 ⑤ 集めた情報や自分の考えを整理し、日本文化の魅力について分かりやすく表現している。 ⑥ 留学生との交流を通して得た考えをもとに、自分の考えを見直し深めている。	③ グループで協力しながら、日本文化の魅力をよりよく伝えようとしている。 ④ 留学生との交流を通して異なる文化や価値観を尊重しようとしている。 ⑤ 日本文化や「和の心」についての学びを、自分の生活やこれからの生き方に生かそうとしている。

6 単元について

【探究課題について】

本単元では、「日本文化の魅力や価値と、そこに根づく「和の心」を世界に発信する自分」を探究課題として設定した。

近年、国際化が進み、異なる文化や価値観をもつ人々と関わる機会が増えている。そのような社会の中で、自国の文化について理解し、そのよさや魅力を他者に伝えることは、国際社会を生きる上で大切な力の一つである。また、本校区には歴史や伝統文化に関わる地域資源が多くあり、児童が日本文化に触れる機会にも恵まれている。しかし、児童の多くは日本文化を体験したことはあっても、その意味や価値について深く考えたり、自分の言葉で説明したりする機会は十分ではない。

そこで、日本の伝統文化や生活文化について実際に体験したり、文化を受け継ぐ人々の思いや願いに触れたりしながら、その魅力や価値について探究する学習を設定した。そして、海外の人々に向けて日本文化を発信する活動を通して、相手意識をもって伝える力を育てるとともに、自国の文化への理解と愛着を深めてほしいと考えた。

この学習を通して、児童が日本文化のよさや価値を再認識し、自国の文化に誇りをもつとともに、多様な文化を尊重しながら国際社会の中で主体的に行動しようとする態度を身に付けてほしいと願い、本探究課題を設定した。

【深い学びに向けて】

〇児童の変容を促す主な体験

・課題発見 【発見過程】	・日本文化にはどのような種類があるのか調べて分類する ・日本文化がどれほど海外に広まっているか観光客にインタビューして確かめる ・日本の文化には海外にまだ広がっていないものもあることに気付く
・日本文化体験 【追究過程】	・日本文化の魅力や価値を実感する ・日本文化を支える人々の思いや願いに気付く ・日本文化に息づく「和の心」について自分なりの考えをもつ ・「なぜ長く受け継がれてきたのだろう」という課題意識をもつ ・日本文化の魅力だけでなく、その背景にある価値観に目を向ける
・日本文化の魅力に迫り、発表計画を立てる 【提案過程】	・自分たちが伝えたい日本文化の魅力について明確にする ・発表計画を立て、見通しを持つ
・発表の準備と練習 【熟成過程】	・ほかの班とアドバイスを伝え合いながら練習する ・日本語が通じない留学生に伝わる方法を模索しながら練習をする
・留学生への発表と振り返り 【表現過程】	・実際の相手に日本文化の魅力を伝える ・留学生の反応や考えに触れ、新たな見方や価値観を得る ・日本文化や和の心についての考えを深める ・自分の生活の中にある「和の心」に気付く

〇探究的な学習を創る

児童はまず、「日本文化はどれほど海外に広まっているのだろう」という問いから学習を開始する。日本文化と聞いて思い浮かぶものを出し合う中では、「日本文化はどれくらい知られているのだろうか」「外国の人は日本文化をどのように見ているのだろうか」といった疑問が生まれることが予想される。そこで、外国の人へのインタビューを通して実際の認識を知ることで、日本文化の中には海外でも広く知られているものがある一方で、その魅力が十分に伝わっていないものもあることに気付く。そして、「もっと多くの人に知ってもらいたい」という新たな課題意識が生まれる。

次に、「日本文化の魅力とは何だろう」という課題を設定する。茶道や、和食などについて、講師の話を聞いたり実際に体験したりする活動を通して、その文化が長く受け継がれてきた理由を考える。体験前は技術や見た目の美しさに着目していた児童も、講師との交流や友達との対話を重ねる中で、「相手を思いやる気持ちがある」「一つ一つの動作に意味がある」「よりよいものを目指して工夫している」などの価値に目を向けるようになるだろう。また、これまでの体験や調査で得た情報を整理し、それぞれの日本文化に共通して見られる考え方を比較・関連付けながら考察することで、「相手を大切にする心」「より高い技術を目指す努力」「見えない部分まで丁寧に取り組む姿勢」などが日本文化を支える価値であることに気付いていく。児童同士で意見交流を行ったり、講師の考えと比較したりすることで、「和の心」や日本文化の魅力についての見方を更新し、より本質的な理解へと近づいていく。

さらに、「発表の計画を立てよう」という課題について探究を進める。自分たちのグループが伝えたい魅力が最も伝わるような発表方法を検討し、準備の計画を立てる。日本語が通じない相手へ魅力を伝えるにはどのような方法が適しているか、様々な方法の中から可能性を検討していく。魅力を伝えるという課題意識をもち、それに対しての手段を選択することで課題解決的な思考を育む。

その後、「発表の準備と練習をしよう」という課題へと発展する。日本文化の魅力について、日本の大学で学ぶ留学生に伝える活動を設定することで、実際の相手を意識しながら発信内容や方法を工夫する必然性が生まれる。児童はグループで協働しながら、相手に伝わりやすい表現や体験活動を考え、準備を進める。

そして、「日本文化の魅力を海外の人に届けよう」という課題に向き合う。留学生との交流を通して、日本文化に対する新たな見方や価値を知り、自分たちの学びを再構築していく。また、これまで学んだ内容を自分の生活に引き寄せて考えることで、友達への思いやりや当番活動への責任感、誰かのために行動した経験などにも「和の心」が表れていることに気付く。この過程を通して、「和の心」は伝統文化の中だけにある特別なものではなく、自分たちの生活にも生きている価値であるという認識を形成していく。

このように、本単元では「日本文化はどれほど海外に広まっているのだろう」という問いから出発し、「日本文化の魅力」『「和の心」の真髄』「自分自身や、自分たちの生活とのつながり」へと探究を深めていく。そして、留学生への発信活動を通して学びを社会へ開き、他者との協働の中で課題を解決しながら、自らの考えを形成・更新していく探究的な学習を目指す。

〇学びを生き方につなぐ

自分の中で確かになった学びは、自分の考え方や行動の基盤となり、これからの生き方へとつながっていく。本単元では、日本文化の魅力や、その根底にある「和の心」について調べたり体験したりする中で、相手を思いやる心やよりよいものを追求する姿勢、伝統を大切に受け継ごうとする思いなどに触れてきた。さらに、留学生に日本文化の魅力を伝える活動を通して、自分たちが当たり前だと思っていた文化や価値観を見つ

め直し、そのよさを再認識することができる。

こうした学びは、日本文化に関する知識としてだけでなく、学校生活や家庭生活、地域での人との関わりの中で、相手を尊重し、思いやりをもって行動しようとする態度につながる。また、自分たちの文化や伝統を大切にしながら、その価値を他者に伝えていこうとする姿勢は、多様な人々と共に生きるこれからの社会においても重要な力となるだろう。

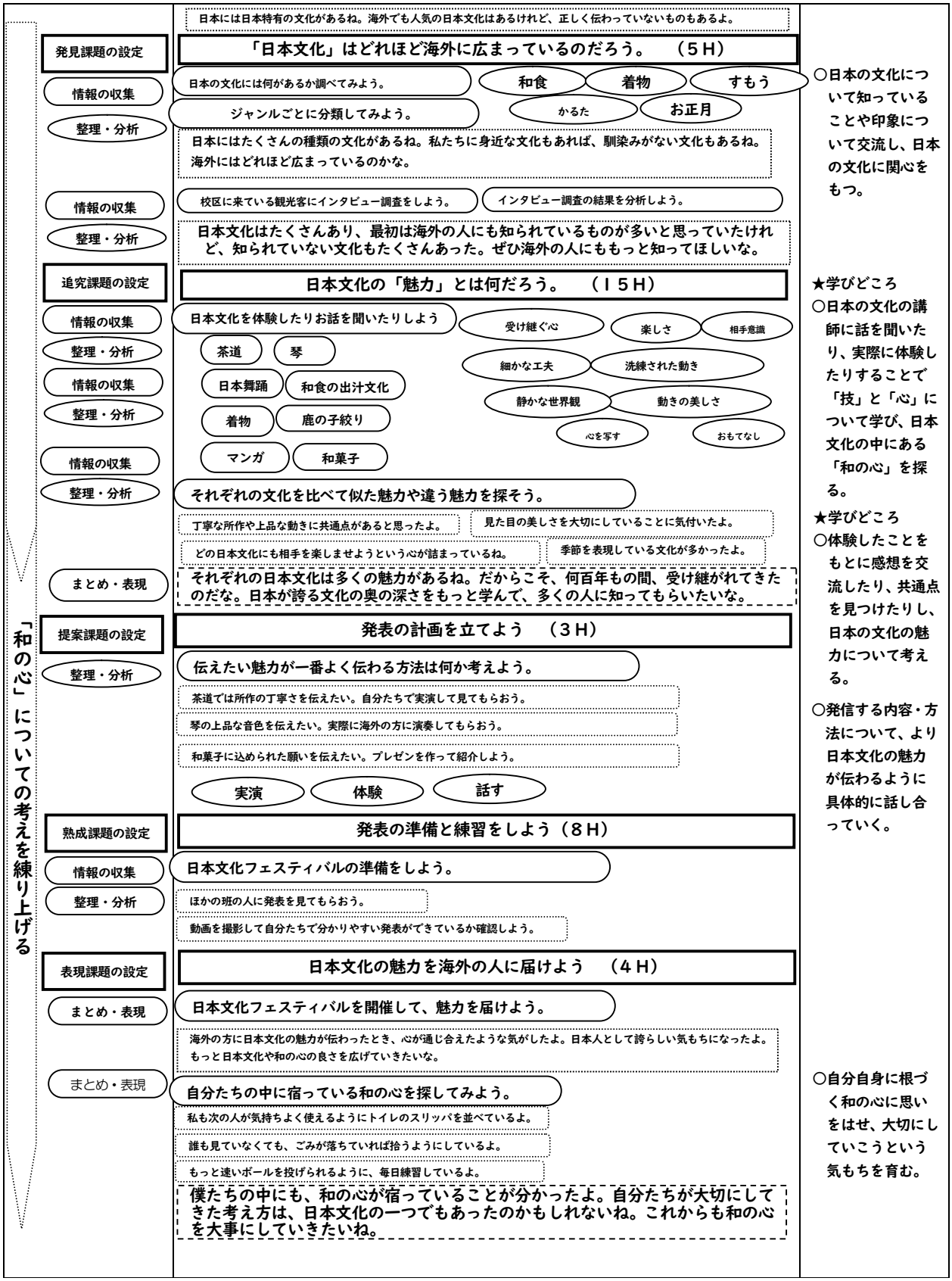
本単元で見いだした「和の心」は、日本の伝統文化の中だけに存在するものではなく、児童自身の日常生活の中にも生かすことができる考え方である。学びを通して育まれた、人を大切にする心やよりよい自分を目指そうとする意識が、これからの人生における行動の指針となり、よりよい自己の創造につながることを期待している。

〇他教科との関連について

教科名	単元名・教材名	資質・能力のつながり	学習の時期
国語科	資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう「固有種が教えてくれること」 「自然環境を守るために」 「統計資料の読み方」 「どちらを選びますか」	資料から必要な情報を読み取り、根拠を基に考えを形成する力を、日本文化についての調査・分析に活かす。 また、意見を述べあったり、他者の意見に共感したりする。	10月 ～11月
国語科	事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう 「子ども未来科で何をする」	目的や相手を意識しながら、自分の考えを根拠を基に分かりやすく伝える力を、留学生への発信活動に活かす。	2～3月
社会科	わたしたちの生活と食料生産	日本の食文化やそれを支える人々の工夫や努力について理解し、日本文化の価値を考える。	6～7月
社会科	情報化した社会と産業の発展	情報を収集・整理・活用する力を、日本文化に関する探究活動に活かす。	9～10月
道徳科	「和太鼓調べ」	日本の伝統や文化を受け継ぐ人々の思いについて考え、伝統と文化を尊重する態度を育む。	9月
道徳科	「マインツからの便り」	異なる文化や価値観を尊重し、国際理解を深める態度を育む。	2月

7 単元構想と評価・支援

5年（4月～12月）　　35時間



8 本時について（21／35 時間目）

（1）目標

自分たちが伝えたい日本文化の魅力が最もよく伝わるような方法を考えることで発表の見通しが持てる。

（2）展開

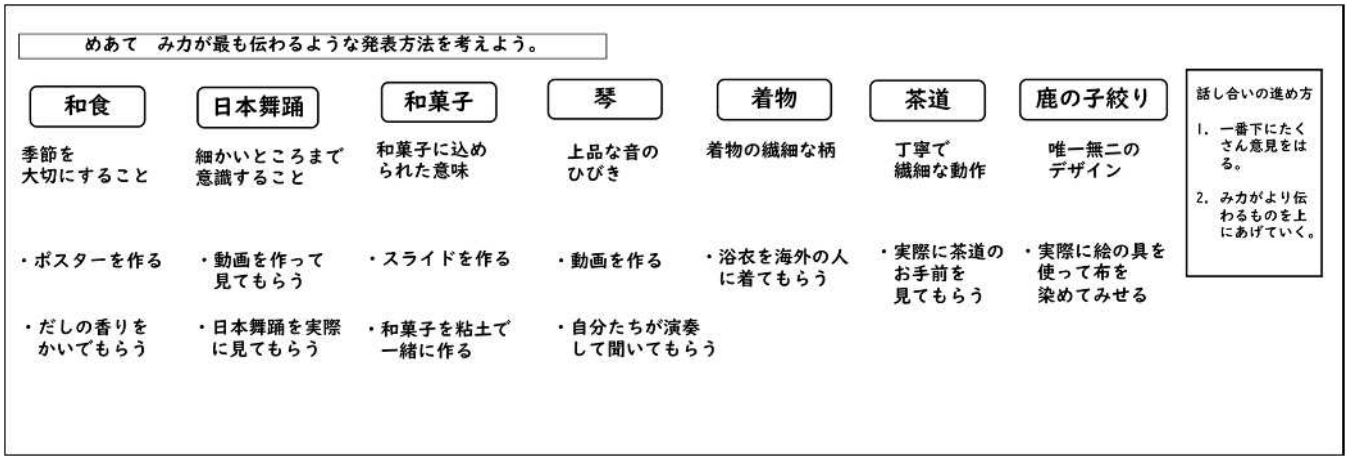
○学習活動 ・児童の反応	◇支援 ＊留意点 ㊐個別支援
1.本時の学習のめあてと活動内容を確かめる。	＊発表方法はたくさん考えられるが、その中で最も自分たちの伝えたい日本文化の「魅力」が最も伝わる方法を考えることを強調する。
み力が最も伝わるような発表方法を考えよう。	
2. 自分たちが伝えたい魅力が最も伝わる方法を考え、発表方法を検討する。 ・丁寧で繊細な心を伝えるためには、茶道のお点前を自分たちがしているところを実際に見てもらったらどうだろうか。 ・和食で季節を大切にすることを知ってもらうために、まずは海外の方に日本の旬の食べ物を知ってもらうことが必要だから、紹介の動画を作ってみたらいいと思うよ。 ・日本舞踊の細かいところまで意識するところを感じてもらうには、実際に日本舞踊を体験してもらうのが一番の近道じゃないかな。	㊐発表方法が思いつかない児童には、魅力を書いた掲示物を見せることで具体的に想像しやすいようにする。 ＊その発表方法を選択した根拠を尋ねることで、自分たちが大切にしたい魅力を意識できるようにする。 ＊海外の人が日本語を全く話せない可能性があること、1 班 10 分程度の発表時間であることを伝える。 ◇ピラミッドチャートを用いながら、よりめあてに近づく方法を上部に上げていくことで、魅力が最も伝わりやすい方法を自由に考えられるようにする。 自己決定力 伝えたい魅力が最も伝わる方法を自分たちで考える。
○ほかの班の発表方法を聞く。 ・体験してもらうことで、自分たちが体験で感じた魅力を海外の人にも感じてもらえると思う。 ・言葉で説明するよりも実際に見てもらった方が分かりやすいから、自分たちで実演して見ようと思う。	◇発表方法を「話す」「実演」「体験」の 3 つに分類して板書することにより、それぞれの良さがあることに気付けるようにする。 ◇出る意見を共感的に受け止めることで、様々な方法が板書に表れるようにする。 ＊海外の方の目線に立ち、実際に体験してみると魅力が伝わりやすいという視点を持てるようにする。

	＊他の班の方法で自分たちの班でも取り入れたいと思ったものは取り入れても良いと伝える。
3．本時の振り返りをする。 ・次回はもう一度班で話し合って発表方法を具体的に決めてから、実際に日本文化フェスティバルの準備を始めていきたい。 ・友達の班で、茶道のお手前を実際に自分たちでして見せると言っていたのがとてもいいなと思う。自分の班でも実際に見せた方がわかりやすいという意見が出たので真似してみてもいいかもしれないよ。 ・体験してもらうだけでは日本文化の考え方が伝えきれないから、体験の前に動画を見てもらって知識も伝えたいね。	◇この時間の新たな気付きや前時までとの変容を意識してその理由とともに振り返ることで、この時間の学びの価値を自覚できるようにするとともに、今後の学習への意欲をもてるようにする。 自己決定力 「話す」「実演」「体験」のどれが適しているか考え、選択する。 自己調整力 他班の考えと比較しながら自分たちの発表方法の良さや課題を見直し、考えを調整する。

（3）評価

【思③】	自分たちが伝えたい魅力がより伝わるような方法を考え、これからの活動を見通すことができている。（発言・ワークシート）
「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言・記述」	
・私が伝えたい魅力は、茶道の「丁寧で繊細な動き」です。そのためには実際に茶道のお点前を見てもらうのが良いと思うので、実演してその様子を見てもらいたいと思います。 ・僕が伝えたい魅力は和食の「季節を大切にすること」です。そのためには日本の季節の食べ物を知ってもらうことが大切だと思います。それらを紹介する動画を作成して流すといいかもしれません。 ・私が伝えたい魅力は日本舞踊の「細かいところまで意識すること」です。これを海外の人に知ってもらうためには実際に日本舞踊を体験してもらうのが一番いいと思います。自分たちが日本舞踊を習得して、それを教えてあげたいと思います。日本舞踊を自分たちが習得できそうかは次回の授業で考えていきたいと思います。	

（4）板書計画


めあて　み力が最も伝わるような発表方法を考えよう。
和食
季節を
大切にすること
・ポスターを作る
・だしの香りを
かいでもらう
日本舞踊
細かいところまで
意識すること
・動画を作って
見てもらう
・日本舞踊を実際
に見てもらう
和菓子
和菓子に込め
られた意味
・スライドを作る
・和菓子を粘土で
一緒に作る
琴
上品な音の
ひびき
・動画を作る
・自分たちが演奏
して聞いてもらう
着物
着物の繊細な柄
・浴衣を海外の人
に着てもらう
茶道
丁寧で
繊細な動作
・実際に茶道の
お手前を
見てもらう
鹿の子絞り
唯一無二の
デザイン
・実際に絵の具を
使って布を
染めてみせる
話し合いの進め方
1．一番下にたく
さん意見をは
る。
2．み力がより伝
わるものを上
にあげていく。